

私のねずみグッズ(2)

元木 貢

アペックス産業株式会社(motoki@apex-sangyo.co.jp)

1994年にインドのボンベイでアジアオセアニア PCO 大会 (FAOPMA) が開催された。深夜にホテルに到着、翌朝眠い目をこすりながら新聞に目を通すと、一面に「スラート市がペスト宣言」の記事が飛び込んできた (図1)。インド西部のスラートを中心に、飛沫感染をする死亡率の高い肺ペスト患者が続出し、死者は100人を超えた。パニックに陥った住民30万人もがスラートを脱出し、首都ニューデリーやボンベイに流れ込んできたというもの。街には口をマスクや布で覆う人で溢れ、薬局には抗生物質を買う行列ができていた。心配された大会は予

定通り開催され、楽観主義の日本人グループは最後まで残ったが、韓国グループは初日に本国に帰ってしまった。自分の身は自分で守るという国民性の違いだろうか。

骨董屋で土産物を物色していたところ、ヒンズー教のシヴァ神の息子で、智慧と富をもたらす象頭神「ガネーシア」の乗り物がネズミで、店内におびた数人の絵や彫り物を見つけた。嬉しくなつてついつい買ったものである (写真1)。

大阪の天王寺動物園にある夜行性動物館を訪れたところ、下水管の中にいるドブネズミが展

示されていた。飼育員にさっそくねずみ駆除協議会の話をしたところ、動物園の定期刊行物に記事の投稿を依頼された。ほどなくして掲載された冊子と飼育員手作りのねずみの張子が送られてきた (写真2)。

日光で求めた竹細工の虫の指揮者のもとに、私のねずみグッズによる楽団を結成した (写真3)。



写真1. ガネーシア

図1. ス
ラート市
のペスト
宣言



写真2. 張子のねずみ



写真3. ねずみのオーケストラ